第６学年　道徳学習指導案

１　主　題　名　　Ｂ－（７）感謝　　命をつなぐ命

２　教　材　名　　命をいただく　　（出典「命をいただく」）

３　主題設定の理由

(1) 子どもの姿について

　　最高学年となって２か月が経った。４月のぎくしゃくしていた様子と比べて、クラスの中で友達が増え、子どもたちはみな明るく元気に過ごしている。４月から感じてはいたのだが、給食の時間に、嫌いな食べ物を平気で残そうとする子どもが多い。それが５月になると、食べたいものだけを食べ、食べたくないものは平気で残そうとするような態度も見られるようになった。

　(2) ねらいとする価値について

　　生きるということは、たくさんの命をいただいているということである。それは言い換えれば、いろんな命を奪っているということでもある。子どもたちは、命の意味も考えず、毎日食べ物を食べている。自分で直接手を汚すこともなく、今回扱う教材の主人公である坂本さんのような悲しみや苦しみも知らず、ただ、食べている。本来なら、「いただきます」や「ごちそうさま」という感謝の言葉も言わずに食べることは許されない。まして食べ物を残すことはもってのほかである。子どもたちにはこのようなことや、命をいただいているということに気づいてほしい。そして、食べ物自体への、食べ物を作っている人への、感謝の気持ちをもつきっかけとなってほしい。

(3) 教材について

　　「いのちをいただく」という絵本を教材にする。この本は、食肉加工センターで働く、坂本さんが体験した実話である。坂本さんはある日、牛のみいちゃんと、ひとりの女の子に出会う。食肉として屠殺されるみいちゃんとその別れを悲しむ女の子。その姿を見て、坂本さんは食肉加工センターではもう仕事を続けられないと思う。しかし、息子のしのぶ君の「心の無か人がしたら、牛が苦しむけん」という言葉や、仕事に行くというしのぶ君との約束に押され、みいちゃんの処理をする。その後、女の子の祖父と会い、女の子は泣きながらもみいちゃんに感謝し、その肉を食べたという話を聞く。坂本さんはこの件をきっかけに、その仕事をもう少し続けようと決心する。食べ物が満ちあふれているこの時代に、食べ物のありがたみを伝えるのは難しい。しかし、わたしたちの命は、他の多くの命に支えられていると実感させることで、食べ物のありがたみを理解させたい。そういった指導をしていく上で、この教材は有効であると考える。

４　子どもの心を揺さぶるための手だて

・教材の分割提示

　　　教材を分割して提示していくことにより、子どもがより深く思考できるようにする。

・講師の招聘

　　　実際に食べ物を扱っている先生の話を聞くことで、より身近な問題としてとらえさせる。

５　本時の学習

(1) 目　標

　　　坂本さんや女の子の姿を通して、命について考えることができる。

　(2) 学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習段階 | 児童の活動 | 教師の手だて |
| 導入  （５分）  展開  （30分）  終末  （10分） | １　食べ物の好き嫌いについて考える  ・僕はハンバーグが好き。  ・私はピーマンが苦いから苦手だよ。  ・いつも嫌いなものは残しているなあ。  ２　資料１から、しのぶ君が普通の肉屋と言ったとき、坂本さんはどう思ったのか考える  ・動物を殺す仕事なんて言えないよな。  ・恥ずかしかったんだろうなあ。  ３　資料２から、「お父さんの仕事はすごかとやね。」と言われた坂本さんの気持ちを考える  ・救われたような気持ちになる。  ・いや、逆に複雑な気持ちになると思うな。  ４　資料３から、女の子が牛の腹をさすっている様子を見て、坂本さんはどう思ったか考える  ・この牛は殺せないと思ったと思う。  ・見たくなかったと思ったと思うよ。  ５　資料４から、翌日、坂本さんはどうしたのか考える  ・仕事は仕事だからきっと行ったよ。  ・大人だから仕事には行ったと思うな。  ・何か理由をつけて休んだんじゃないかなあ。  資料５から、なぜ坂本さんは仕事を続けようと思ったのだろう  ・命をつなぐ仕事だってことに気づいたんだよ。  ・みんなの食を支えていることに気づいた。  ６　講師の先生の話を聞く  ・毎日そんなに残菜が出ているのかあ。もったいないことをしているなあ。  ・命に対して失礼だよ。  ・僕たちにできることはないのかなあ。  ７　授業の感想を書く  ・食べ物に対して、感謝しなくちゃいけないね。  ・これからは残さずに食べるように頑張ろう。 | ○問題意識をはっきりさせるために、好きな理由や嫌いな理由もあげるように伝える。また、嫌いな食べ物をどうしているかも発言するように促す。  ○資料は方言が多いので、児童の理解を助けるために、説明を混ぜながら教師が読む。  ○坂本さんの後ろめたい気持ちをおさえ、多面的に考えられるよう、坂本さんの仕事に着目するように示唆する。  ○しのぶ君とお父さんの考え方の違いをはっきりさせるために、しのぶ君が普通の肉屋と言っていたことと比較する時間をもつ。  ○話し合いを深めるため、見たくなかったという意見が出たら、なぜそう思ったか理由も聞く。  ○坂本さんの仕事に対する思いをおさえ、クラスで多角的に考えられるように、坂本さんが仕事を辞めたいと思った理由について考える機会をもつ。  ○主題についておさえられるように、食べるということは命を食べるということ、感謝することを伝える。  ○身近な問題として認識し、多面的・多角的に考えられるよう、給食を作る立場から、現在の実際の残菜量やそれに対する思いを語っていただく。  ○児童の意見を共有できるように、時間があれば数人を指名して発表する時間をもつ。 |

(3) 評　価

　　　教材や話し合いを通して、人は命をもらって生きていることを感じることができたか。

（発言や授業中の様子）